

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

・入学者の推移と現状

【表1】に過去8年間の工学部総合システム工学科及びデザイン学部情報デザイン学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数及び定員充足率を示す。

総合システム工学科は、令和2年度までは志願者数及び入学定員充足率ともにほぼ増加の一途をたどっていたが、ここに来て令和3年度は平成30年度の水準以下まで低下したことから、令和4年度より入学定員を現行の230名から10名減員した220名とし、入学定員充足率の適正化を図ることとした。

また、情報デザイン学科は、令和3年度にかけて志願者及び入学定員充足率ともに堅調に推移し、令和2年度の入学定員充足率が1.31倍となり、令和2年度自己点検・評価において入学定員充足率の改善が必要との評価結果を得たことを受け、令和4年度に入学定員を現行の45名から10名増員した55名とし、入学定員充足率の適正化を図ることとした。

【表1】

工学部 総合システム工学科

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
志願者数	336	355	308	452	443	472	520	430
受験者数	331	346	305	447	439	464	514	423
合格者数	326	330	293	438	429	450	487	403
入学者数	209	209	181	254	237	261	267	228
入学定員	240	240	240	230	230	230	230	230
定員超過率	0.87	0.87	0.75	1.10	1.03	1.13	1.16	0.99

デザイン学部 情報デザイン学科

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
志願者数	68	79	50	82	110	92	105	99
受験者数	68	78	50	81	110	92	105	98
合格者数	68	76	49	69	108	91	91	87
入学者数	50	50	34	46	49	52	59	54
入学定員	75	75	55	45	45	45	45	45
定員超過率	0.67	0.67	0.62	1.02	1.09	1.16	1.31	1.20

・定員充足の見込み

本学の工学部総合システム工学科は、キャンパスが立地する京築地域（行橋市、豊前市、荇田町、みやこ町、築上町、上毛町、吉富町）で唯一の大学であり、その優位性は高い。特に工学部の立地する荇田町は、自動車産業を中心とした製造業企業が集積した地域であり、工学部の教員で組織する「自動車・ロボット研究所」と企業との産学連携による課題解決型

の共同研究が行われ、特に日産自動車九州㈱とは、実用的な成果を出しており、そのことが社会的にも評価されている。

情報デザイン学科についても北九州市及び京築地域で唯一の情報・デザイン系の学科であり、その優位性は高く、当該学科と自治体や地域との連携事業も開設当初から盛んに行われている。

また、人工知能（AI）やデータ分析の需要の高まりを背景に、情報系の学科への需要が増加傾向にあり、今後もその傾向は顕著であることが予測される。さらに、地元自治体との連携もさらに強化されたことにより、地域住民の本学に対する存在感や期待感も向上し、そのことは近隣の高等学校からも評価されている。さらに、さまざまなプロジェクトやイベントはマスコミに取り上げられることが多く、大学広報としての効果も大きい。

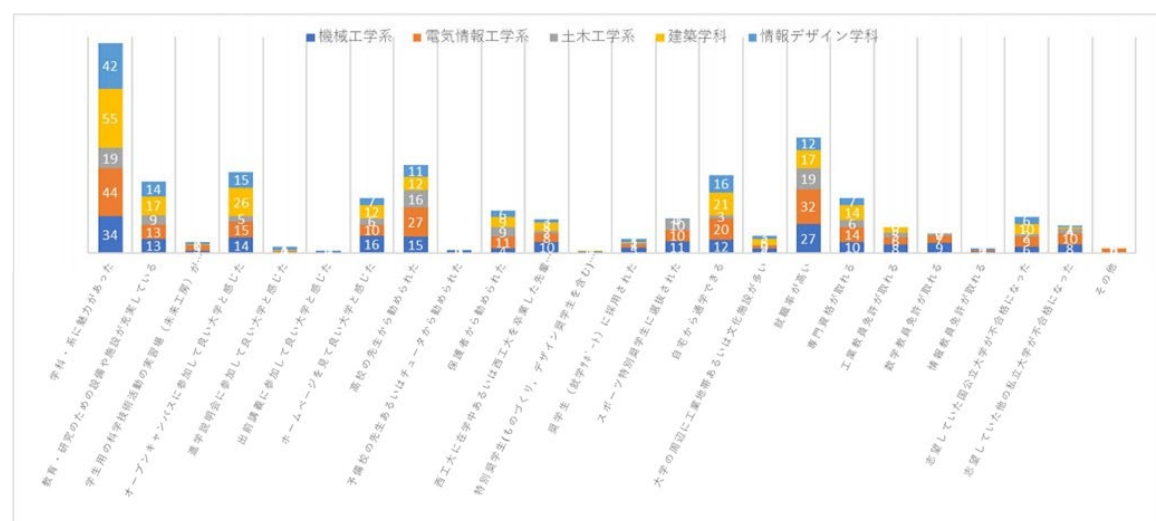
この地理的優位性と地域を志向した教育・研究・社会貢献を推進し、テクノロジーとデザインの融合によるブランドを確立し、学生募集につなげていく計画である。

本学は毎年、新入生を対象としたアンケートを実施しているが、アンケート結果の内、【表2】「入学理由」については、1位の「学科・系の魅力」、2位の「就職率の高さ」に続いて、「高校の先生の勧め」、「自宅通学」、「オープンキャンパス」がほぼ同率で3位となっている。

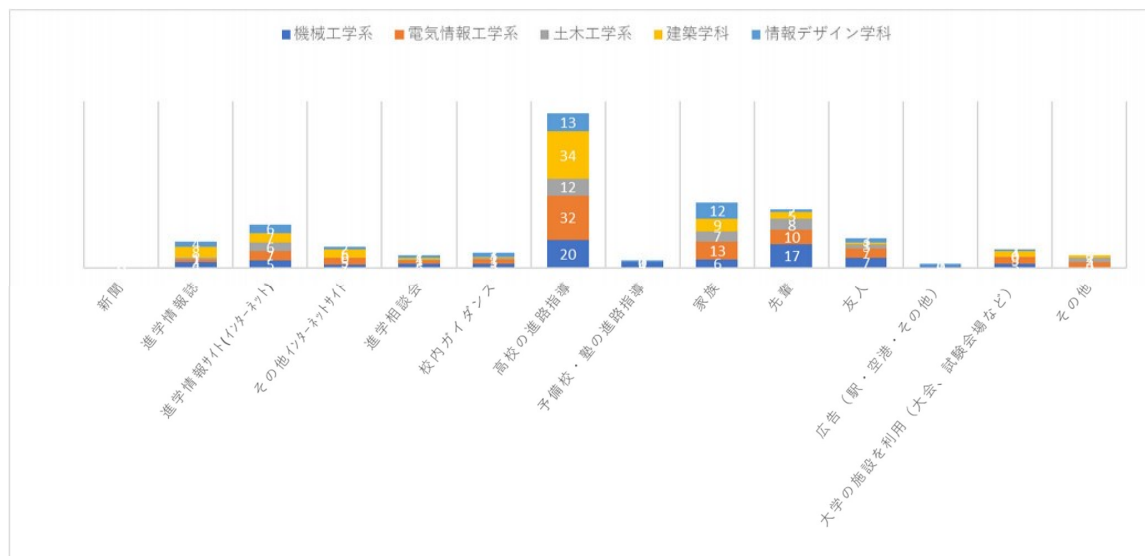
また、【表3】「本学をどのように知ったか」の設問については、群を抜いて「高校の進路指導」が1位である。この結果を踏まえ、令和2年度入試における学生募集については、高等学校及び教員との更なる信頼関係の醸成、オープンキャンパスの改善・工夫、通学圏内を中心とした学生募集強化を大きな柱として実施している。

また、高校訪問時に実施した推薦入試における本学志願動向の聞き取り調査でも前年度より増加傾向であることが確認されている。

【表2】



【表 3】



就職率であるが、総合システム工学科の就職率は安定しており就職希望者比で令和元年度は100.0%、令和2年度は98.9%である。一方、情報デザイン学科は就職希望者比で令和元年度は92.6%、令和2年度は100.0%と堅調である。【表4】【表5】なお、情報デザイン学科は、地元企業の就職指導を強化することによって、就職内定率(就職希望者比)の改善が見られた。今後も地元企業の安定した就職率を維持することができれば、入学者の確保につながる事が期待できる。

本学は、平成29年度に開学50周年を迎え、その記念事業の一環としてメインキャンパスである「おぼせキャンパス」を中心とした施設のリニューアル工事を進めた。この事業により学生の創造的な「ものづくり」活動や科学技術活動の拠点となる未来工房の新設や、スポーツ施設の整備等が行われ、学生満足度の向上につながっている。

また、令和2年より続く新型コロナウイルス感染拡大を受け、令和2年度開始前より学生の修学機会と安全の確保を第一に考え、対面授業と遠隔授業のハイブリッド方式による授業形態を導入することの検討を重ね、令和2年度前期の早期より迅速かつスムーズにハイブリッド方式による遠隔授業を導入することができている。また、学生からも好評であり、多様な学生への対応が可能となり、その結果、出席率の向上等につながり理系大学の強みを活かすことができ、大学の教育研究設備の高度化が図られている。本学は、高等学校や地域に積極的にキャンパスを開放しており、社会貢献と併せて、施設設備の充実をアピールしている。

以上、高校訪問による高等学校の教員との信頼関係の醸成や、通学圏内の学生募集活動のさらなる強化、安定した就職率の維持、地域を志向した教育、研究、社会貢献活動の実績による大学ブランド力の向上を図ること、「京築地域で唯一の大学」、「北九州市・京築地域で唯

一のデザイン学部」であることの特徴と優位性を活かすことで、令和4年度以降の総合システム工学科及び情報デザイン学科の安定した入学定員の確保を目指す。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学は、平成25年3月に「地域を志向した大学」を宣言し、地域に特化した教育、研究、地域貢献を果たすことを使命としている。また、地元自治体及び地域企業との連携、地域の高等学校との連携が飛躍的に推進しており、自治体との連携を強化することで、地域住民の本学に対する存在感や期待感も向上しており、特に地元の荻田町、行橋市及び豊前市とは本事業を契機に包括的な連携協定を締結し、その一環として役所や役場などに本学の大学案内や広報冊子を設置することや、市報・町報を活用した広報など、大学広報としても成果を上げている。また、さまざまなプロジェクトやイベント等は、マスコミから取り上げられることが多く、パブリシティを活用した広報展開にもつながっている。

直接的な学生募集対策としては、通学圏内の高等学校を中心とした、きめ細やかな高校訪問を実施している。また、単に訪問回数を増やしたのではなく、完全アポイント制による訪問を実施し、在学生の修学状況等の報告はもとより、在学生のトピックス等をこまめに報告することにより、高等学校教員との信頼関係強化につながっている。

ホームページについても刷新し、特に若年層が利用するスマートフォンなど携帯端末での閲覧を重視したりリニューアルを行ったほか、SNSの活用による広報も展開している。

また、開学50周年記念事業によるキャンパスリニューアルや、文部科学省の補助金を活用した教育研究設備の充実が図られていることから、高等学校の見学会、体験学習、インターンシップ等の積極的な受け入れや、地域社会への積極的な施設開放を通して、施設設備の充実を学外にアピールすることにより、大学のブランド力の向上を図り、ひいては志願者の増加と安定した入学者確保につなげることを目指す。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は、「人間性に支えられた高度な工業技術者を広く学術の研鑽を通じて育成する」を建学の精神、「人を育て技術を拓く」を基本理念とし、「豊かな人間性の錬成と優れた工業技術者の育成」を教育目標に、責任感、誠実さ、協調性などの徳育に重点を置いた人間性教育を基本姿勢としている。

総合システム工学科の教育研究上の目的は、「本学の建学の理念、学部の目的に基づき、総合システム工学に関する理論及び技術を教授研究し、持続可能な社会形成に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成する」ことである。また、人材養成に関する目的は、「総合システム工学に関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的魏実能力を習得し、幅広い視野を持つ総合性を備えた人間性豊かな高度専門職業人を養成する」ことである。総合システム工学科については、地域企業のニーズを踏まえ、平成28年度より設備保全工学コースと知能制御コースを新設している。また、地域企業との共同研究や課題解決型の卒業研究など

に取り組んでおり、より実践的な実務型技術者の育成を推進している。

情報デザイン学科の教育研究上の目的は、「本学の建学の理念、学部目的に基づき、情報デザインに関する理論及び技術を教授研究し、良好な社会環境・人間環境の創造に寄与し、高度な専門性を修得した人材を養成する」ことである。また、人材養成に関する目的は、「豊かな人間性と幅広い教養を備え、情報デザインに関する理論的及び技術的知識と情報技術能力、実務的技術能力を修得した専門性に富む人材を養成する」ことである。情報デザイン学科においては、開学当初から地域の課題解決をテーマとしたプロジェクト授業等に取り組んでおり、PBL授業の更なる強化を進めている。

また、地域を志向した教育、研究、社会貢献の強化により、地域を理解し、シビックプライドを持ち合わせた技術者やデザイナーの養成が進められており、そのことが地元企業への就職率向上にもつながっている。

②人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学は、就職指導を教育の一環と位置づけ、1年次からのスタートアップセミナーや2年次から3年次前期にかけてのキャリアガイダンス、地元企業でのインターンシップ等を通して、学生の就業意識の醸成や社会人基礎力の育成を図っている。また、3年次から就職ガイダンスやゼミナール、4年次の卒業研究担当教員との面談等を通して具体的な就職指導を進めており、【表4】のとおり令和2年度の大学全体の就職率は就職希望者比で99.3%、卒業生比で89.2%と高い就職率を維持している。学科別の就職率は、総合システム工学科で就職希望者比98.9%、卒業生比87.4%の就職率であるが、情報デザイン学については就職希望者比100.0%、卒業生比88.1%と堅調である。

令和3年度の5月15日現在での就職内定状況は、【表5】のとおり大学全体で就職希望者比21.3%（昨年度同時期20.3%）、卒業生比で17.6%（昨年度同時期16.9%）と昨年度より順調に推移している。総合システム工学科は、就職希望者比19.2%（昨年同時期26.0%）、卒業生比は14.4%（昨年同時期20.6%）で昨年度より低調で推移しているが、情報デザイン学科については、就職希望者比9.1%（昨年同時期5.1%）、卒業生比8.3%（昨年同時期4.5%）と昨年度に比べ順調に推移している。

本学は、「令和2年度企業に対するアンケート」【表6】を実施し、企業が採用及び業務遂行に当たって「専門分野における知識・技術」、「社会性」、「協調性・忍耐力」等を重視しているという結果を得ている。

また、本学の学生に対する本学OBの印象は「協調性がある・まじめである・責任感が強い」の3つの割合が高いという同アンケート結果からも、本学の基本姿勢「責任感、誠実さ、協調性などの徳育に重点を置いた本学の人間性教育」にある本学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることを示しており、その客観的な根拠は【表6】のとおりである。

【表 4】

項 目	学部・学科	令和元年度	令和2年度
内定率(希望者比)	総合システム工学科	100.0%	98.9%
	建築学科	98.3%	100.0%
	情報デザイン学科	92.6%	100.0%
	合 計	98.7%	99.3%
内定率(卒業生比)	総合システム工学科	93.8%	87.4%
	建築学科	96.7%	94.5%
	情報デザイン学科	80.6%	88.1%
	合 計	92.9%	89.2%

【表 5】

就職内定状況(就職希望者比)

令和3年5月15日現在

区 分	前月率	当月率	上昇率	前年度 同月率	前年度末 率
総合システム工学科	17.0%	19.2%	2.2P	26.0%	98.9%
建築学科	25.0%	32.1%	7.1P	13.3%	100.0%
情報デザイン学科	6.8%	9.1%	2.3P	5.1%	100.0%
合 計	17.7%	21.3%	3.5P	20.3%	99.3%

就職内定状況(卒業生比)

区 分	前月率	当月率	上昇率	前年度 同月率	前年度末 率
総合システム工学科	12.8%	14.4%	1.6P	20.6%	87.4%
建築学科	24.7%	31.8%	7.1P	12.7%	94.5%
情報デザイン学科	6.3%	8.3%	2.1P	4.5%	88.1%
合 計	14.6%	17.6%	2.9P	16.9%	89.2%

【表 6】

令和 2 年度 企業に対するアンケート

